

2022.1.1



古川博士の 気象コラム

古川武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

今年のノーベル物理学賞は、気象学者の真鍋淑郎さんが受賞しました。この受賞は、私たち気象学を研究する者にとって、とても喜ばしいことです。

真鍋さんは、大気だけでなく、海洋の影響も含めた「大気・海洋結合モデル」を確立し、世界で初めて地球の気候を数値的にシミュレーションしました。現在、世界で行われている気候研究の基礎となっており、気象庁の長期予報にも用いられています。

さらに驚くべき功績は、二酸化炭素が増えると、地球の気温が上昇し地球温暖化につながることを半世紀以上も前に発表し、警鐘を鳴らしたことです。

真鍋さんの研究は、その後、1988年の「国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の設立、そし



▲ 2004年韓国ソウル市で行われた国際会議。真鍋さんと参加者で写真を撮影（写真中央が真鍋さん、左側が私です）。

て二酸化炭素の排出抑制を議論する昨年の国際会議「COP26」につながっています。

真鍋さんとは、学会で何度かお会いしていました。その中でも、2004年のソウル市で開催された国際会議の講演やプリンストン大学を訪れた時の彼の流暢な英語と、身振り手振りで自らの研究を生き生きと説明する姿にととても感銘を受けたことを思い出します。

真鍋さんの研究のおかげで、現在では常識となった長期予報や地球温暖化などの気象学は、私たちの生活にととても身近な存在となりました。異常気象に悩まされる昨今、地球温暖化を止めるのも私たちの生活次第です。地球環境に優しい生活を心掛けたいですね。